広報 とよひら

広報紙 第37号

豊平地区町内会連合会

発行者：中川 昭一

札幌市豊平区豊平6条7丁目1-12

TEL：011-811-9435

豊平の福祉に愛の手が伸びる

豊平地区マークと福祉標語

地区新年交礼会の開催

町内会役員等の交流を図って地域の連帯意識の向上を目指して



本年一月九日、プレミアホテルＴＳＵＢＡＫＩ札幌において、町内会連合会の新年交礼会を開催しました。出席者は、豊平区長はじめ国会議員・道議会議員・市議会議員・地域の団体代表者等の来賓を含めて二百二十名余りでしたが、お互いに挨拶を交わして交流を深めることができました。

中川昭一町連会長から主催者挨拶があり、来賓を代表して西田健一豊平区長からご挨拶をいただきました。続いて舞踊家花柳駒優美さんよる祝舞「霊峰富士」を優雅にご披露いただきました。影山雄一区保健福祉担当部長の祝杯により祝宴となりました。



余興では、「豊平音頭」の披露や町連有志一同による男性・女性の紅白対抗の演芸会となり、豊平消防団員によるＤＡＰＵＭＰの「Ｕ・Ｓ・Ａ」の熱唱と珍ダンスの披露（疲労）、防犯部員による大合唱、九分区町内会下濱明幸さんの鬘に武士への変装による十八番、三波春夫の大戸根無情の一節『止めて下さるな、妙心殿。落ちぶれ果てても平は武士じゃ、：行かねばならぬそこをどいて下され、行かねばならぬのだ…』の熱演に大喝采でした。これらの迷場面・珍場面については、写真をご照覧いただければ幸いです。



本年は、平成最後の交礼会であり、思い出深いものとなりました。五月には天皇陛下のご譲位により元号が改められ、新天皇が即位される記念すべき年です。

豊平町連は昨年、創立五十周年を迎え、本年は、後半の半世紀幕開けの年でもあります。亥の年は、個人は、知識を増やす、精神を育てる。組織は、人材育成や設備投資、財務基盤を固めるなど、外に向けての活動ではなく、内部の充実を心がけると良い年と言われております。「各町内会においても、それぞれ内部組織を見直して、後継役員候補を育てる等、基礎固めにご努力をいただき、その基盤を強固にして地区町内会連合会の改革と発展につなげていきたい。」との思いも新たにした有意義、かつ、楽しい交流会でありました。

有馬尚経氏、札幌市長より感謝状





豊平地区町内会連合会の主要活動やフロンティア豊平21の講演会などで活躍している旭水町内会役員の有馬尚経さんが、札幌市民活動促進のさぽーとさっぽろ基金に貢献したとして秋元克広札幌市長より感謝状を受けました。小島祐司札幌市市民文化局市民自治推進室長ら幹部職員が豊平会館を訪れ、秋元市長の代理として感謝状の贈呈を行いました。中川昭一町連会長・本間敬規豊平まちづくりセンター所長・柴田崇行旭水町内会顧問・佐藤郁子町連女性部長などが同席し、室長らと歓談しました。

有馬尚経さんは旭水地区の生まれで、大学院博士後期課程を終えてから町内会活動に本格的に参加、豊平川神社の祭祀担当を兼務しながら旭水町内会創立五十周年記念誌の執筆や、本職の憲法学・法制史研究者として旭水町内会の「地域活動の場整備支援事業」における歴史講演会の講師などを行っている。町連では各種イベントの執行企画委員や、当広報誌の編集委員、豊平地区町内会連合会五十周年記念誌の執筆担当、鉄一が里・歴史講演会の講師などを行っている。



お家の防災グッズチエックリスト

お家に備えているかチエックしましょう！



お家の防災グッズ	使い方	チェック欄
水	水は、一人１日2～3リットルは必要と言われています。家族の人数分 ×７日分を用意しましょう。	
非常食	食べた分を買い足す「ローリングストック」で災害の時も美味しい食事ができるよう非常食をそろえましょう。	
携帯ラジオ	電気がストップすると、電池で動くラジオは、大切！正しい災害情報をすぐに聞くことができます。	
LEDランタン	電気がストップすると、夜は真っ暗！リビング、キッチントイレ用に3個は用意しましょう。	
ポリ袋	手袋や食器、雨具代わりになったり、ダンボールにかぶせて水を運ぶ時にも使えます。レジ袋類もケガの手当（骨折の手当て）等に役に立ちます。	
新聞紙	折り紙のように折ると食器に、丸めると骨折の時の添え木になります。お家の新聞紙はすぐに捨てずに10日分位は、残しておきましょう。	
ラップ	食器にかぶせると洗い水の節約になるし、寒いときは、新聞紙と一緒に身体に巻くと温まります。	

お家の防災グッズ	使い方	チェック欄
歯磨き用ウェットティッシュ	水がストップしてしまったときに、歯を磨くことができます。病気を防ぐためにも、お口の中はキレイにしましょう。	
ウェットタオル	水やガスがストップしてお風呂に入れないときに、ウェットタオルが便利です。大きいサイズのものは、自分で背中も拭けます。	
カセットコンロ	カセットコンロがあれば、お湯を沸かすことができるので、温かい食べ物が食べられます。鍋やラーメン、焼き肉。予備のボンベも一緒に用意し置きましょう。	
クーラーボックス	電気がストップして冷蔵庫が使えなくなったときに、保冷剤を入れると冷蔵庫の代わりに使えます。	
携帯トイレ	物を食べたり飲んだりすれば、必ずトイレに行かなければならないですね。水がストップしてしまったときは、携帯トイレを使いましょう。	
アルミ保温シート	寒いとき身体をくるんだり、床が冷たいときに保温に使えます。車の中にも置いておくと便利です。	
電池式石油ストーブ	電気がストップしたとき、電源式石油ストーブは使えません。電池式の発火方式の石油ストーブで温まることができます。灯油も２０リットル容器２個位の備蓄が必要です。	

クリーンさっぽろ衛生推進協議会研修会開催

平成三十年十二月二日、クリーンさっぽろ衛生推進協議会の研修会が駒岡保養所で行われました。豊平地区町内会の各地域推進委員・環境衛生部長さん達が参加して行われました。参加者三十一名が受講、清掃事務所から三名の職員が講師として来てくださり、ＤＶＤ・スライドなどゴミに関する講義、ゴミの出し方、減らし方、各家庭から出る家庭ゴミの分別方法、排出方法についての講義でした。ゴミの減量とゴミの再生利用で生まれ変わるゴミ、ゴミとして捨てられているダンボール・新聞紙・雑誌・アルミ缶など資源になるものがたくさんあります。ゴミがただのゴミではなく、資源として再利用される内容に、参加者全員が真剣なまなざしで聞き入っていました。

講習が終わった後も、個人的に講師に質問して疑問を解決し、今後の活動に役立てようとしていました。古くなって捨てるものをもう一度見直して再利用するという気持ちを広く伝えていくことが重要です。午後、食事が終わった後はレクリエーションとして参加者全員でじゃんけん大会を行い、結構盛り上がって真剣にやっていました。その後、百人一首とほーへーかるたで大いに盛り上がり、和気藹藹と笑いの多い時間となりました。やさしさと誠実さにあふれたクリーンさっぽろ環境衛生部の皆さんの研修会の一日でした。

地域社会における繋がり、結びつきといったコミュニティー機能は、住民同士の支えあいは危機要因の除去・注意喚起等、災害だけでなく犯罪や福祉・環境等の様々な問題を解決する際にその役割を果たしてきました。しかしながら、現代社会では住民の生活様式の多様化、少子高齢化の進展、さらには核家族化、単身世帯の増加に見られる世帯構成の変化等様々な要因によって、かつて「向こう三軒両隣」という地縁、血縁によって構成されていた人間関係が崩壊し「隣は何をする人ぞ」といった言葉に象徴されるように、地域社会とのつながり、近隣住民との結びつきが希薄になってきました。

一方で頻発する自然災害や凶悪犯罪等の多発による地域社会への不安が高まる中、地域・近隣とのつながり、結びつきの必要性が再認識され、地域コミュニティーの中で自発的な取り組みが進められるようになってきています。自主防災活動はむしろコミュニティーの維持や復活には重要な切り口と位置付けられ、単位町内会での地域住民の創意工夫による主体的な活動が益々求められています。昨年九月六日未明の震度六強の激震で、大規模な被害をもたらした胆振東部地震における被害状況を参考に各ご家庭でも自発的な取り組みを考えてみてはいかがでしょうか。

お知らせ

【豊平地区町内会連合会から】

祝　次の方々が表彰を受けられました。

○札幌市ぬくもり・すこやか表彰
豊平地区福祉のまち推進センター
○北海道交通安全推進委員会長表彰
三ツ屋邦孝さん（豊平二条二丁目）
池田　栄さん（豊平五条五丁目）
○札幌市交通安全運動推進委員会会長表彰
吉川　鴻治さん（豊平三条八丁目）

◎今後の主な豊平地区の行事
～三十一年九月まで～

○交通安全母の会新入学児童マスコット配布
四月八日（月）
○とよひら福祉のまち推進センターお元気グッズ配布
四月・七月・九月
○春の交通安全運動街頭啓発
五月十日（金）
○豊平地区町内会連合会総会
五月十六日（木）
○とよひら花ＬＡＮＤ植花
五月～六月
○春の親子レクリェーション
六月予定
○鉄一が里とよひら塾第一講歴史講演会
六月予定
○夏の交通安全運動街頭啓発
七月十一日（木）
○豊平神社例大祭
七月十四日（日）・十五日（月）
○こども盆踊り大会
八月上旬予定
○志村鉄一慰霊祭
八月十六日（金）
○とよひらふれあいまつり
八月二十五日（日）
○豊平地区防災訓練
九月一日（日）
○とよひらおもしろひろば
九月上旬予定
○秋の交通安全運動街頭啓発
九月二十日（金）
○交通安全祈願祭
九月下旬
○健康フェアとよひら
九月二十九日（日）

【防災コラム】

豊平区のコミュニティＦＭはＦＭアップル７６・５ＭＨｚ。市内で災害が発生した場合、優先的に非常放送を行います。

編集委員
松野　博志・渡辺　英雄
佐藤　郁子・青田　哲夫
石川　紀男・奥瀬　健治
吉川　鴻治・下濱　明幸
有馬　尚経・工藤　修一
田所　勝美・大窪　祐子

SAPPORO

防犯街頭啓発
豊平署管内暴力団組事務所撲滅

豊平地区町内連合会防犯部では、地域の安全、安心を願い、毎年恒例の街頭啓発を昨年末の十九日と今年一月十九日の「東光デー」に合せ、豊平警察署、まちづくりセンターの協力を得て、豊平東光ストアー、ビッグ、ビバの三店舗の玄関前に於いて午後五時より実施しました。

当日は寒さも一段と厳しく、手足もしびれる中、各町内会の防犯部員が定刻までに集合し、また本間まちづくりセンター所長も参加され三班に分かれそれぞれ買い物客に声を掛けながら、防犯協会等からのポケットテッシュ、啓発パンフレットを配布しながら防犯意識の向上を訴えました。



また、お客様からは「寒い中ご苦労様です」「頑張って下さい」との暖かい励ましの言葉に参加者一同、外気の寒さも忘れ、この活動が一歩一歩地域との新たなコミュニティーや犯罪や事故の無い住み良いまちづくりに貢献しているものと実感しました。

また、この裏付けとなる事実として、一月八日に南平岸駅前で豊平警察署管内、暴追協団体の街頭啓発が実施され、年頭挨拶の中で佐藤豊平警察署長より、「豊平管内において昨年末で、暴力団の組事務所が全て撲滅した」との報告があり、各町連で長きに渡り取組んできた防犯活動に謝意を示し、「これからも、これらの活動を通して地域で安全にそして安心に暮らす事ができる活動を一歩一歩進めて下さい」との激励があり、それぞれの思いを胸に豊平町連、月寒町連、平岸町連、清田町連と班を組み街頭啓発を行いました。

この活動は、北海道犯罪防止条例に基づき、地域の安全、安心まちづくりの事業計画として行われており、町連ではこの活動は地域との信頼の絆を広め、住み良い環境を築くものと確信しております。



お楽しみ演芸大会開催

福まちお楽しみ演芸大会が平成三十年十月四日午後一時から豊平児童会館の体育室にて百四十七名の参加のもと盛大に行われました。主催は豊平地区老人クラブ連絡協議会とよひら福祉のまち推進センターが毎年開催して、今年で第十九回になりました。豊平地区で活動している六つの老人クラブ団体が一堂に集まり、それぞれ久しぶりの対面とあって会場内は盛り上がっていました。

当日は朝から好天に恵まれ、開演時間の一時前から来場者が詰めかけ、会場を埋めていました。大会は午後一時にときわ豊友会の小田会長による開会の言葉ではじまり、主催者のあいさつを豊平地区老人クラブ連絡協議会の寒川会長ととよひら福祉のまち推進センターの松野委員長、続いて豊平地区町内会連合会の中川昭一会長からご来賓の挨拶がありました。

演芸に入り、ときわ豊友会の酒井秀男さんの司会で進行、演目も舞踊・カラオケ・民謡・踊りと多彩にわたり、出演者は真剣に演芸を披露していました。中でも「ひょっとこ踊り」には大きな笑いと拍手がわき、会場は一段と盛り上がりました。最後に北海盆唄を全員で元気に踊りながらフィナーレを迎え、午後三時に来年の幹事クラブである旭水クラブの瀧口会長からの閉会の言葉で演芸大会を無事終了しました。来年もまたお楽しみ演芸会を予定しておりますので、大勢のご来場をお待ちしております。





雑感
世の中の変化と防災

十二支でいちばん最後に来る「亥年（いのしし年）」は「子年から始まった一つの流れがいったん終わりを告げる年」「エネルギーを蓄えて次の世代へと向かう準備をする年」「翌年から始まる次の種の成長に備えて、内部の充実を心がけるべき年」「次のステージやステップに向けて準備していく時期」だといわれている。

本年は五月に今上天皇がご譲位され上皇となられて、新天皇陛下が即位されることにより元号も改元され平成の時代の区切りを迎えますが、我々一般庶民にとっては、大きなサイクルが切り替わる「端境期（はざかいき）」などというと、どことなく落ち着かない気持ちになる人もいるかもしれない。

現在のように不確定な事象あるいは不安の種が世の中全体にどんどん増えていっているようにみえる時にはそれも不思議なことではないとも思われる。筆者もこのごろ現役時代には感じたことのない寂寥感（せきりょうかん）に襲われることがある。時代の変化があまりにも早くて、青少年諸君の思考、行動にはとてもついていけない。

それでも、この変わり目の時期こそ「大計（たいけい）」を練るのに打ってつけ」という捉え方もできる。向こう十年くらいを見据えて、どっちの道に進もうかといったことを意識しながら行動し、いろいろと試行錯誤してみるのにちょうどよいタイミング、ということだろうか。

昨年は、九月に胆振東部地震が発災、札幌市内でも大きな揺れや液状化現象により、里塚地区等で大きな被害が出ました。また、過去に体験したことのない大規模停電が起き、一部中高層マンション等で水道がストップし、小中学校に避難所が開設されました。

一般市民の多くは、「札幌は地震もないし、冬も手稲山のお陰で大雪災害はめったに起きない。また、夏や秋にも台風や大雨被害にあうことはめったにない安全な大都市だ。」と認識している方がほとんどではないでしょうか。

人間の心は、予期せぬ出来事に対して、ある程度「鈍感」にできています。日々の生活の中で生じる予期せぬ変化や新しい事象に、心が過剰に反応して疲弊（ひへい）しないために必要な働きで、ある程度の限界までは、正常の範囲として処理する心のメカニズムが備わっていると考えられているのです。古い防災常識では、災害に直面した人々の多くは、たやすくパニックに陥ってしまうものと信じられており、災害に関する情報を群衆にありのままに伝えて避難を急がすようなことは、かえって避難や救助の妨げになると考えられてきました。

最近の研究では、実際にパニックが起こるのは稀なケースであるとわかってきました。むしろ、災害に直面した人々が直ちに避難行動を取ろうとしない原因の一つとして「正常化バイアス」などの心の作用が注目されております。

災害時における住民のみなさんへの避難の呼びかけには、「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示（緊急）」の三種類があります。

町内会防災担当役員等の防災時のリーダーになる方を始め近隣の方々が、地域の高齢者等に災害の被害程度を把握したうえ、「正常化バイアス（危険を無視する心理）」から今そこにある危機を認識させる「確認」・「声掛け」等の行動が必要になります。大声で「○○で火事だ！早く逃げろ！」「豊平川が氾濫、上の階へ逃げろ！」等と知らせて回る等一人ひとりのアクションが危険を気付かせる地域の防災力といってもいいでしょう。今回の大地震を体験して、「防災訓練に参加していて良かった」「停電になってみて改めて、懐中電灯・ラジオ等防災器材等の準備不足が分かった。」等の声がかきれました。一方、「避難場所がわからなかった。」「自宅で待っていれば、区の人か民生委員が助けに来てくれるんでしょう。」と、お話ししてこられる高齢者もいました。

日頃から、「災害は来る。」との認識を持ち、「自分の命は自分で守る。」意識を持つことが肝要です。配布されているハザードマップをよく見て、自分の地域は、どんな危険があるのか。避難経路・避難場所は何処か。確認しましょう。町内会活動に積極的に参加し、地域のみなさんと顔見知りになっておくことも大切です。災害への備えをしっかりとした安全な地域づくりに挑戦したいものです。

カラオケとダンスのタベ
地域が集い楽しい一時を

平成二十九年四月より、豊平地域居住者間の親睦コミュニティーの場として、豊平会館二階大広間で「カラオケとダンスのタベ」が月一回日曜日の午後五時半～八時半まで定期的に開催しておりますので、仲間と気兼ねなく足を運んでみてはいかがです か。

会場には三万二千曲のレーザーディスク（寄贈品）と四十二インチの大型テレビ（寄贈品）が用意され、カラオケカードにそれぞれ好きな歌を選曲し、自慢の喉を披露しています。会場使用料は参加者負担（一人三百円）かかりますが飲食等の持ち込みは自由となっており、各自持参しテーブルに広げ楽しんでいます。

この集いも回を重ねる毎に楽しい仲間が増え、今では四十名となり、町連で活躍している役員や、町内会長等また、豊平神社祭のカラオケ大会に参加されている方や、老人ホームを慰問している方等も参加し多彩な顔ぶれとなり楽しんでいます。

また、この集いでは年二回、お盆と年末には仮装大会と称し、イベントなども開催し、昨年の暮れにはクリスマスパーティーと銘打って、仮装やひょっとこ踊り、クイズを交え参加者全員に景品等を渡し、笑顔の中で一層の親睦を深めていました。参加者の方からは「毎月イベント、企画ものをやってほしい」との要望もあり、頭を悩ませているところです。この「カラオケとダンスのタベ」は会員制や組織だって運営しているのではなく、町内会会員であれば老若男女関係なく誰でも好きな時に会場費三百円を持って気兼ねなく来て楽しんでくれればよいのです。そして、この集いを地域の皆さんで盛り上げて楽しんで下さい。







違法駐車防止合同パトロール

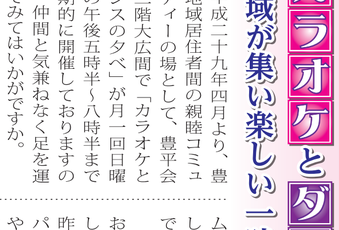
例年行われております合同パトロールが、一月二十四日に実施されました。区市民部・土木部・豊平警察署・その他豊平各町内会長・防犯部・交通指導員等の約二十人が参加して二コースに分かれて約一時間半行いました。

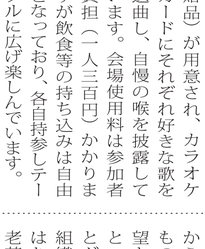
さて、昨年の道内における交通事故死者数は、百四十一人と交通事故統計の記録が残っている昭和二十二年以降で最少となりました。一月も一桁となっています。豊平地区は高齢者の事故が多くなっています。皆様も交通事故には十分注意しましょう。

今期は少雪とのことでしたが、実施日前に雪が降り、また除雪の実施された場所と されない場所の格差が大きかったのが印象的でした。駐車違反の車両は、数台しかありませんでしたが、ロックされます合同パトロールが、一月二十四日に実施されました。区市民部・土木部・豊平警察署・その他豊平各町内会長・防犯部・交通指導員等の約二十人が参加して二コースに分かれて約一時間半行いました。

さて、昨年の道内における交通事故死者数は、百四十一人と交通事故統計の記録が残っている昭和二十二年以降で最少となりました。一月も一桁となっています。豊平地区は高齢者の事故が多くなっています。皆様も交通事故には十分注意しましょう。







ひとらよ あったかコンサート開催される



平成三十一年二月二十三日に豊平児童会館体育室において、とよひらあったかコンサートが開かれました。今年も出演者の皆様のすばらしいショーに、約百五十人の観衆も大盛り上がりでした。前半は豊平児童会館・旭小学校ミニ児童会館によるダンス・太鼓、ジャグラーコーヘイさんのジャグリングショー、江理さんによる複音ハーモニカ演奏、若草会による民踊でした。ココアタイムをはさんで後半は、M&Mｓclubによるカラオケ・ホアロハさんのフラダンスショー、最後に月居正明さんによる弾き語りショーで楽しみました。







論壇

最近のヤフーニュースで、福岡県糸島市にある町内会が入会金として十万円、下排水費五万円の計十五万円を請求するという記事があった。当該町内会では規約で規定されているので問題はなく、不満を言う会員は全くいないそうだ。使途も公民館の整備が主だという。公民館は行政が建設するものだが、財政状況が良くない自治体では建設どころか維持すらも困難になっており、町内会に自己資金（補助金は多少出ているが）で建ててもらったり、維持費を出してもらっているという。そのため、町内会は「自治公民館」（文部科学省がいう）という類似施設を作って公民館の代替施設としている。それほど町内会には自治公民館は必要不可欠な施設なのである。

しかし、別の町内会では公民館の使用頻度が低いのに、維持費を出すのはおかしいという意見や、地域神社の維持費に関しても、特定宗教への出費だと批判する意見もある。また、福祉行政の強化によって自治公民館を地区にもっと建てろという意見、土地の権利や税制の問題から自治公民館を撤去しろという意見、町内会は戦前の全体主義・軍国主義思想の残滓であるとして解散を求める意見もある。ところ変われば、人も変わるとの言葉もある通り、地域によって考え方は違うのはあたりまえである。

平成二十二年に起きた空知太神社事件（砂川政教分離訴訟「平成二十二年一月二十日最高裁判所大法廷判決」）はまさに、こういう意見を如実に反映したものと言えよう。人植してくる人が自らの出身地元の神社を勧進してくることは、当時としては一般的であった。北海道でも多くの入植者が出身地の神社の分社をもってきて祭祀している。また、戦時中の満州でも日本からの満州開拓団が本国の神社を開拓地に鎮座する例もあった。神社の勧進こそ当該の地で入植者が団結するためのツールであったといえるのではないか。しかし、寺院については全部とは言えないものの、団結のツールというよりも教育・冠婚葬祭という人生の節目に必要なものとしての存在であった。

去年の地震によるブラックアウトで地下鉄や公共交通機関の運休、信号の停止などで公務員らが通勤不可能となり、行政活動がほぼ停止したために、地域住民が運営する町内会・町内会館の役割は大きかった。震災直後から町内会役員が町内会館に集まり、水道水の供給や住民避難、現況調査の役割を多岐にわたって被害の軽減に貢献した。このように行政活動停止の空白時間をサポートする役目も町内会はもっている。

